

生涯学習サロンテーマ

第1回～第10回

平成18年12月1日

東京八王子プロバスクラブ

生涯学習サロン テーマ

第1回	1997年	タイトル	話し手 *外部講師
	月日		
3月13日	講話 「八王子千人同心の成立」	歴史四方山話	野口 正久
		植物を楽しむ	野口 正久
		煎茶道入門	石井 實
		レコード音楽の周辺	古川 純香
			平原 俊彦
3月27日	講話 相続と贈与	続・相続と贈与	藤野 豊
		量刑の今むかし	藤野 豊
		写真撮影のABC	米田 昭
		驚きの猿社会	岡田 尚
			松尾信一郎
4月10日	講話 伝統建築の鑑賞	数寄屋の美	小町 和義
		非常時に備える保険	小町 和義
		美術品鑑賞と鑑定	北原 満夫
		書道に親しむ	岩岡 茂之
			田子 稔
4月24日	いじめのおこる社会	家庭教育の在り方	大山 泰
		東南亜細亜の民族衣装	大山 泰
		地域社会と学校	安藤美代子
		気学門	土井 俊玄
			大野 聖二
5月22日	特別講話 「植物四方山話」		*菱山忠三郎

第2回	1998年	タイトル	話し手 *外部講師
	月日		
3月12日	講話 「成人病の話」	続・成人病について	*長浜 秀策
		少年法の行方	*長浜 秀策
		知られざるスイス	米田 昭
		お茶の楽しみ方	鈴木 幸雄
			安藤美代子
3月26日	講話 大切な衣類の手入れの仕方	シミ抜きについて	鈴木 昭一
		お年寄りの財産をどう守るか	鈴木 昭一
		紙とりサイクル	藤野 豊
		古賀政男と服部良一 歌とその時代	井口 禎
			平原 俊彦
4月9日	講話 人生の午後は青春-幸福の5つの条件-	ボランティアの現状	*盛末 順一
		毛利元就と桂家	*盛末 順一
		食べ物事情あれこれ	桂 元二
		日本人の宗教観	向山 光春
			土井 俊玄
4月23日	講話 幕末の千人同心	歴史への誘い	野口 正久
		騙されても怒れない手品	野口 正久
		自分にあった余暇を見つけよう	大野 聖二
		美術四方山話	川津 鐵禮
			岩岡 茂之
5月28日	特別講話 「時局展望」		*菱山忠三郎

第3回	1999年	タイトル	話し手 *外部講師
	月日		
3月11日	講話 「健康を保つ生活法」	ガンについて	長町 幸雄
		大草原の国モンゴル	長町 幸雄
		懐かしの映画音楽	桂 元二
		絵を描く楽しみ	立川富美代
			吉田 信夫
3月25日	講話 映画作りの楽しさ、苦しさ	あなたの好きなベスト3映画は？	*黒沢 満
		野鳥の話	*黒沢 満
		野球今昔	土井 俊玄
		横浜開港と中井屋重兵衛	岩岡 茂之
			宮崎 浩平
4月8日	講話 華麗なる宝塚	宝塚よもやま話	*清水 英雄
		舞台と茶道	*清水 英雄
		くらしの中の色彩	古川 純香
		八王子の女流俳人榎本星布のこと	石井 充
			小林 義一
4月22日	講話 アメリカ・この不思議な国	カリフォルニアの風土とくらし	田子 稔
		オペラはこんなに楽しい	田子 稔
		自分にとっての人生の最後の言葉とは？	石田 雅巳
		自動カメラの上手な撮り方	近藤 泰雲
			下山 邦夫
5月27日	特別講話 「音楽で楽しむ歌舞伎の魅力」		*景山 正隆

生涯学習サロン テーマ

第4回	2000年	タイトル	話し手 *外部講師
	月日		
	2月24日	特別講話「女性のライフスタイルが21世紀の社会を変える」	*春田 博
	3月9日	身近な台所の衛生	松尾信一郎
		被害者の復権-犯罪被害者をめぐる諸問題-	米田 昭
		中井屋重兵衛と桜田門外の変-井伊直弼、暗殺の謎を探る- タンゴ音楽の楽しみ	宮崎 浩平 平原 俊彦
	3月23日	四季の行事とお茶	古川 純香
		ガンについて その2	長町 幸雄
		女優「李香蘭」の数奇な運命とその時代 オペラはこんなに楽しい その2	渋谷 文雄 石田 雅巳
	4月13日	余暇の活かし方	川津 鐵禮
		法律はボケとたたかえるか	藤野 豊
		コロンブス以前に世界をリードしたアジア - その時の八王子- 短歌いろいろ - 八王子の鈴木一念そして俄万智ほか -	川口 實 小原 康直
	4月27日	色彩のいろいろ	石井 充
		21世紀に残し伝えたいこと	近藤 泰雲
		江戸時代の庶民の暮らし 点描 懐かしの映画音楽 その2	向山 光春 立川富美代
	5月25日	特別講話「私の青春時代の映画:約束」	*齋藤 耕一

第5回	2001年	タイトル	話し手 *外部講師
	月日		
	2月22日	特別講話「風水地理学で読み解く、ふるさとの古代」	*松本 司
	3月8日	海外旅行豆知識	田子 稔
		楽しく歌うためのあれこれ	*五十嵐 淳
		米沢藩を救った上杉鷹山 八王子市長房町にあった東京陸軍幼年学校その栄光と滅亡	吉田 信夫 石井 充
	3月22日	ITで何ができるか(現在と未来)	*檜山 竹生
		プレーイングカード(トランプ)の世界	堀口 進
		八王子の大学あれこれ 魅惑の花「椿」	*松本 一夫 土井 俊玄
	4月12日	ワインの楽しみ方	*神山 春雄
		モンゴルおもしろばなし	桂 元二
		懐かしの映画音楽 その3 小笠原列島の自然と生きもの	立川富美代 石井 充
	4月26日	音楽と映像による東欧二都物語(プラハとワルシャワ)	平原 俊彦
		美しく老いるために	近藤 泰雲
		最近のカメラの楽しみ方(デジカメできれいに撮るには) さらりと乗り切る更年期(中年からの男と女の良い関係を考える)	下山 邦夫 石田 雅巳
	5月24日	特別講話「一枚の絵との出会いが、私に人生を変えた」	*村内 道昌

第6回	2002年	タイトル	話し手 *外部講師
	月日		
	2月28日	講話「かしこい食の選択者/見直そうあなたの食生活」	*黒川 順子
		健康体操手ほどき	*宮城 安子
	3月14日	懐かしのフランス映画あれこれ	平原 俊彦
		美術あれこれ裏話	岩岡 茂之
		自分史、その創設者橋本義夫 前田軍の攻撃と八王子城合戦秘話	大野 聖二 野口 正久
	3月28日	医師と上手につきあう方法	長町 幸雄
		仲間や家族で楽しめるレクリエーション	塩沢 迪夫
		中国を視る 上杉鷹山、その人柄と生涯	渋谷 文雄 吉田 信夫
	4月11日	懐かしの映画音楽	立川富美代
		シルバーエイジを輝いて過ごすために/年をとるってどういうこと	石田 雅巳
		玩具と共に~おもちゃ病院ドクター四方山話 動物たちの21世紀	武田洋一郎 松尾信一郎
	4月25日	楽しく歌おう、世界の歌を	五十嵐 淳
		大好きな良寛様	近藤 泰雲
		我が町、八王子の祭り 映画「12人の怒れる男」を見る/市民による裁判とは	宮崎 浩平 藤野 豊
	5月23日	特別講話「透谷と漱石 副題 猫と幻境」	*小沢 勝美

生涯学習サロン テーマ

第7回	2003年 月 日	タイトル	話し手 *外部講師
	2月27日	特別講話「とんとんむかしばなし」	*菊地 正
	3月13日	医師と患者の関係を良くするための心構え 日本武尊は八王子を通過したか 中国革命の成否を決めた「西安事件と張学良」 光の小道具と江戸の文化・産業・科学	長町 幸雄 大野 聖二 渋谷 文雄 永井 昌平
	3月27日	日本を生きたモラエスの生涯(日本の良さを再認識するために) 暮らしの法律もよま話 幕末、維新の多摩-八王子千人同心の活躍と解体 世界の歌めぐり、音楽めぐり	梅木 松助 成田 章 野口 正久 五十嵐 淳
	4月10日	シルバーエイジを輝いて過ごすために/熟年時代のカラダと気持ち 四国八十八ヶ寺の歩きお遍路を体験して 懐かしの映画とその音楽 井戸端会議(みんなで八王子を語り合おう)	石田 雅巳 矢崎 安弘 立川富美代 宮崎 浩平
	4月24日	宮沢賢治の詩「雨ニモ負ケズ」に学ぶ 映画の中のタンゴ お金のあれこれ~日本銀行券物語~ 大豆よもやま話(日本・世界の大豆、食品としての歴史と重要性)	近藤 泰雲 平原 俊彦 佐々木研吾 橋本 鋼二
	5月22日	講話「TV放送 裏から見れば」	秋山 邦博

第8回	2004年 月 日	タイトル	話し手 *外部講師
	2月26日	特別講話「森林は私たちの大切なパートナー」	*矢野 好彦
	3月11日	続・美術あれこれ裏話 平成16年を占う--音訓占い 幕末を戦った多摩人 カナダの豊かな自然	岩岡 茂之 大野 聖二 野口 正久 矢崎 安弘
	3月25日	童謡・唱歌の世界 痴呆--その理解と対応 お金と私たちの暮らし 楽しいガーデニング	五十嵐 淳 石田 雅巳 佐々木研吾 *西久保哲夫
	4月8日	井戸端会議(野球談義) 懐かしの映画とその音楽 グレンミラーの世界 椿の話--この麗しき花 医学散歩アラカルト--患者接遇の改善の遍歴	宮崎 浩平 立川富美代 土井 俊玄 長町 幸雄
	4月22日	マメの話(世界のマメ、日本のマメ、健康食品としてのマメ) ウイーン物語--映画と音楽による クーデンホーフ光子の生涯 日野原重明先生の「生き方上手」に学ぶ	橋本 鋼二 平原 俊彦 堀口 進 近藤 泰雲
	5月27日	講話「映像で語る人間讃歌」	西澤 幹夫

第9回	2005年 月 日	タイトル	話し手 *外部講師
	2月24日	特別講話「八王子、多摩の食文化について」	*星野 厚子
	3月10日	デジタルカメラを使いこなすには 成辰戦争と八王子千人同心 懐かしのミュージカル、この一曲 暮らしと経済~銀行券改刷、ペイオフ、少子化	下山邦夫他 野口 正久 平原 俊彦 佐々木研吾
	3月24日	愛唱歌~人生の友達 昭和の八王子・「まち」と「みち」を探る 美術あれこれ談話 流通の変化あれこれ~物売る側と消費者の思考の変化等	*五十嵐 淳 石井 充 岩岡 茂之 小林 時雄
	4月14日	八王子の明日を考える~市民の暮らし、文化、買い物 朝鮮半島を視る~南北朝鮮の歴史と現状、将来 内視鏡の話 大道芸よもやま話~口上商人の真髄を探る	大野 聖二 渋谷 文雄 永井 昌平 下田 泰造
	4月28日	介護予防のすすめ~世話にならない老後をめざして 「良寛と貞心尼」と和歌を通して~心の交流と純愛物語 懐かしの映画とその音楽 井戸端会議(国技「相撲」を考える)	石田 雅巳 近藤 泰雲 立川富美代 宮崎 浩平
	5月26日	講話と実演「郷土の文化財「八王子車人形」西川古柳座」	*佐藤 広

生涯学習サロン テーマ

第10回	2006年	タイトル	話し手 *外部講師
	月日		
	2月23日	特別講話「宇宙開発の夢と現実」	*河島 信樹
	3月9日	日本の蝶 あれこれ	*中嶋 正人
		江戸時代の八王子地域の文化 八王子千人同心の文化活動	野口 正久
		初歩的な仏像の見方 気軽に手軽に絵手紙を描く	土井 俊玄 池田 ときえ
	3月23日	「ごみ」リサイクルへの挑戦	矢島 一雄
		古事記、日本書紀に見る渡来神の不思議な伝説	荒 正勝
		思い出の映画その音楽(1)映画「哀愁」 映画音楽「別れのワルツ」 サプリメント、くすり与健康	平原 俊彦 阿部 和也
	4月13日	パネルディスカッション 魅力ある学園都市づくりにむけて	大野 聖二
		井戸端会議 我が町。八王子のまつり	宮崎 浩平
		CTスキャナの話 茶道と茶席の楽しみ(お茶の会)	吉田 信夫 阿部治子他
	4月27日	野外で楽しむデジカメ講座(写真同好会)	下山 邦夫他
		日本の宗教を考える	近藤 泰雲
		思い出の映画 その音楽(2)映画「南太平洋」 映画音楽「パリ・ハ ウォーキングを科学する	立川富美代 石田 雅巳
	5月25日	特別講話「八王子の地形と気象」	*原島 宏昌

八王子千人同心の成立

講師 野口 正久

司会 田子 稔

1 千人頭の源流

- ・武田家から扶持、切米、知行地を受け、甲州国においては武田の目付役、甲州九口の道筋奉行を勤め、出陣の際には槍(長い槍)を持って先陣をつとめた。
- ・武田晴信より感状を受けたこと度々、また大月の岩殿城築城に貢献した。
- ・武田氏滅亡後、徳川家へ臣従の起請文を提出。これにより武田氏から受けていたのと同等の待遇を受けた。

2 千人同心の成立と八王子宿

- ・豊臣秀吉の命により徳川家康は関東に入国し、江戸城を本拠地とする。敵方からの江戸城攻略の拠点とならないよう八王子城は廃城とする。
- ・天正19年、小人を増員し小人頭(10人)を中心として総勢500人態勢となり、八王子城下の八幡社の東、中宿、元八王子に居住する。4年後の文禄2年、横山の地(現、千人町)を賜り駐屯する。
- ・慶長5年(1600年)、1000人の組織となり、千人同心と呼び拝領屋敷を千人町と呼んだ。同年関ヶ原の戦いに参戦し、後大阪冬、夏の陣にも参戦する。
- ・戊辰戦争の時には日光勤番千人頭(石坂弥次右衛門)は日光山を無傷で官軍に引き渡す。八王子市が日光市と姉妹都市となっている所以である。

(記録)

講師

元・八王子中学校校長会会長

八王子千人同心旧交會会長

相続と贈与

講師 藤野 豊
司会 石井 実

1 財産の相続に対する考え方

相続する財産はあった方がよいのか？ 広大な森林や昔ながらの茅葺き屋根のやしきなどを遺産相続してもその維持費に莫大なコストが掛かったり、また、相続した財産を巡り骨肉の争いが生じたりと、結構煩わしい問題がある。一つの例を挙げて見よう。

渋谷の一等地に土地を持っていた夫が死去、妻と子供達で遺産を相続した。土地を分割する訳にいかず、法律家の意見で土地の上にビルを建てて会社組織にして株式による分配をした。その後暫くして妻(母)と子供の間柄が不和となり、子供達は取締役会で社長である母を解任、増資を決議して増資分の株式を母 割り当てなかったことから、母の持ち株比率は激減し、相続した財産は大幅に目減りしてしまった。このように法律家の言う通りにしても上手く行かないことがある。そこで、なまじ財産があると、親子兄弟間で争いの基になるから、財産がない方が良いと言う考え方もある。然し、そのために財産を早く妻や子に譲ってしまったらすると、老後に惨めなことになる恐れがある。兵庫県有馬温泉極楽寺に伝わる歌があるが、含蓄が深い。(資料P 6 参照) 少なくともある程度の財産は身の回りに持っていなければならない。

式田和子さんの著作『死ぬまでになすべきこと』から目次を抜粋して遺産相続の際の注意事項を解説。(詳しくは資料参照)

2 財産の相続制度の存在理由

法律家は三つのものを考える。

- ①財産は被相続人の名義になっているが、その形式には家族全員の寄与があった。
 - ②後に残された未成年の子などの生活を支えてゆくため。
 - ③最も根本的なことは私有財産制度の維持である。
- ということになる。

3 遺言が特に必要な場合

9項目を例示して解説。(資料P 2～3 参照)

4 遺言の書き方

遺言には自筆証書遺言、公正証書遺言、秘密証書遺言の三つがあるが、まずは自筆証書遺言を作成して置くこと。(その書き方は資料 P3 に詳述)

(記録)

講師

元・裁判長

日本文化大学教授

伝統建築の鑑賞

講師 小町 和義
司会 加藤 寛

1 建築様式

飛鳥時代

仏教伝来と共に寺院建築の技術者が渡来して指導に当たった。四天王寺、法隆寺金堂が建立された。

奈良時代

前期には薬師寺が建立、また、鑑真和尚が10回目にしてようやく日本に上陸を果たし、唐招提寺が建立された。

平安時代

特徴は日本化された柔らかい形の建築である。

前期の貞観時代は室生寺の本堂、五重塔、また最澄、空海が唐から帰国し山岳仏教(密教)による寺院が建立された。

後期には京都の醍醐寺、平等院鳳凰堂が建立、末期には平氏が滅亡し興福寺建立

鎌倉時代

平安末期から鎌倉時代にかけて宋から新建築様式(天竺様式)が渡来し東大寺、浄土寺浄土堂の建立にこの様式が導入された。

室町時代

和様、唐様またはミックスの様式が取り入れられた。

2 伽藍配置

中国式 中心が一直線

日本式 基本は直線であるが、塔と金堂を左右に配置

3 スライドによる勉強

屋根の形、社殿の形式、そして建築細部の名称及び建物の特徴を勉強した。

(記録)

講師

(株)番匠設計代表取締役

主な設計 高尾山不動院本堂、金剛院会館、福生市茶室(福庵)、他

著書 数寄屋の実践

いじめのおこる社会

講師 大山 秦
司会 平原 俊彦

1 いじめの現状

被害者側 いじめは突然起こって来るものではない。 身体的、心理的な攻撃を継続的に受け、深刻な苦痛を感じ、死に追い込まれる場合もある。

加害者側 始めは冷やかし・からかいから次第にエスカレートする。 少しは悪いと思っている。しかし、相手を傷付けている自覚が乏しい。

いじめは見つけにくい。 調査をしても実態はつかみにくい。 学校のイメージダウンになるので体面上報告をしない場合がある。 平成6年度からいじめの点検月間を実施し、子供達の相談を聞き、出来る限り早く発見し対策を立てた結果、件数は減る傾向にある。

2 いじめのおこる原因、背景

社会環境の悪化 子供が身体全体を使って遊ぶ場所の減少、高層マンション内での人間関係の欠如

家族構成 核家族化 少子化など

学校の変化 昭和22年文部省が学習指導要領試案を作成し、以後10年毎に見直し、昭和33年文部大臣が算数、国語、理科に重点を置く指導要領を出したが、ついて行けない生徒を生み出した。

学歴重視社会 良いところへの就職のため、良い大学、そのためには良い高校そして塾での勉強など、幼稚園選別にまでエスカレートし、物質の豊かさのみを求め、心を忘れてしまった。

3 対策

八王子市教育委員会では平成6年12月より「いじめ110番」を開設した。

文部省は指導要領を改訂してゆとりと充実上の視点からゆとりの時間を設けた。 しかし、ゆとりに時間を設けること自体問題があるのではないか。

教育は長い時間をかけて変えてゆく必要がある。 一方、我々大人も世の中の仕組みを見直して行くことが必要かも知れない。

(記録)

講師

元・八王子第二小学校校長

八王子青年の家嘱託

歴史四方山話

話し手 野口 正久

司会 石井 充

司会者から『今日は気軽に井戸端会議のつもりで話し合いませんか』と語り掛け、話し手からも今度は皆さんが主役ですから、どしどしご発言願います、との呼びかけで始まり、直前の『八王子千人同心の成立』の講話を受け、参加者の活発な質問とそれに対する話し手の回答に終始した。

以下、その質疑応答の主なものを紹介する。

Q：小人頭の知行地はどこにあったのか？

A：八王子に来てから、調布、世田谷さらに遠くは木更津、君津まで分散していた。

Q：戊辰戦争の時、千人同心は幕府軍に参戦したのか？

A：八王子に進駐して来た官軍の板垣退助と掛け合い『抵抗はしないが味方もせず』との血判状を出す、同心の一部が上野の戦いや五稜郭の戦争に参加。新選組とは行動を共にせず。

Q：高乗寺と千人同心の関係について知りたい。

A：この寺に千人頭の窪田四家の墓があり、関東十八代官が八王子に住した墓もある。

Q：八王子市と苫小牧市は姉妹都市になっているが、千人隊はなぜ北海道に行ったのか？

A：千人同心が行ったのは明治維新の時ではなく 1800 年(寛政年間でロシアの南下に対抗して警備と開拓のため幕府の命で派遣されたもので、最初は 100 人、後に補充で 30 人、大変規律正しかったと言われている。

Q：千人町の地図の今昔対比について

A：資料を使って詳細な説明、明治新政府でお頭屋敷はなくなる。

(記録)

植物を楽しむ

話し手 石井 寛

司会 加藤 寛

自分を取り巻く環境、社会と同じように 自分と植物との関係を考えながら見るだけでも楽しい。 山を散策し 珍しい草花に出逢った時、あとで図鑑で調べるのも楽しい。

家庭においては失敗を繰り返し育てて観るのも楽しい。 今回のセミナーでは花を楽しむ草木に話題が集中した。 シラタマ、ワビスケは実の成らない椿、また山茶花は寒椿の別名であり、梅が中国から日本に移植される前は松竹梅でなく松竹 椿と言われ、椿はお目出度い植物とされていた。 又、ツギ木をすることにより一本の木から色の異なる花を配合することが出来る。 その他の花木ではボケ、シャクナゲ、カクタス、ボタン、シャクヤクなどが話題になり、草花では朝顔の育て方、世田谷区の花であるサニー草、特に話し手が持参したシンビジュームの珍種は参加者の一人がアミダくじをして持ち帰った。

一時間が瞬く間に過ぎ、このサロン開催中は他の質問にもお答えするとの話し手の発言でお開きとなった。

(記録 加藤 寛)

煎茶道入門

話し手 古川 純香

司会 清水 里子

話し手は、煎茶道清泉幽茗流の家元で、社中の方々10名を差配されて華やかなデモンストレーションを繰り広げた。文字通り日常茶飯事で、普段は雑然と入れ無造作に口に運んでいたが、美しい流れのようなお手前で入れられたお茶は口中に馥郁たる香りの広がりであった。お離さまの道具のお手前はままごとのように可愛らしいもので、優雅な雛の宵を思い出した。

煎茶道は江戸初期に中国から日本へ帰化僧が持ち込み、その後日本で育てられたもの。お茶の種類は玉露、煎茶、番茶、紅茶 中国茶その他いろいろあるが、夫々の味わい方がある。

玉露は飲むものではなく舌先に落とすもの、と夏目漱石もその著書『草枕』の中で述べている。また煎茶は胸元で香りを嗅ぎ喉元で味わうように、糸のように注ぐ。

お湯の温度 玉露 40℃～60℃ 大匙一杯の茶葉を2分

煎茶 70℃～80℃ 150cc～200cc、6gの茶葉を急須に入れて、最後の一滴まで大事に注ぐ

飲み方 茶碗を陽(右)の手で持ち、陰(左)の手で支え、玉露は鼻先で香りを嗅ぎ舌に乗せるように口に運ぶこと(陰陽五行の法則に従った作法) お手前に使う丸盆は宇宙の天体を表す。

お茶の心得 手を使い心を使うお手前 我々が活かされている根本的な火、土、水などを大切に感謝する心を養う。物を見て大きいものは大きいように、小さいものは小さいように扱う。

煎茶道は皆さんでお喋りをしながら楽しむから老化防止になり、リハビリにもストレス解消にも適している。日本の先人達の残してくれた諸々の物を含めて、伝承文化を次の世代へ是非伝えたい、との家元の言葉で短時間ではあったが、ほんのさわりだけを触れさせて頂いた。

最後は「ご退屈さまでした」の挨拶で締められた。

(記録)

レコード音楽の周辺

話し手 平原 俊彦
司会 立川 富美代

レコード音楽はジャンルが大変多いが、今回はクラシックを中心に聴きながら、その最近の動向について話を進める。

1 今話題のCDについて

去年、日本で一番売れたクラシックが最近表彰されたが、その中できわだっただのトップがカラヤンの「アダージオ」のCDだった。これは有名名曲の「アダージオ」部分を集めたもので「癒しの時代」にふさわしい作品といわれている。その中の一曲を聴いて見よう。

ベルリン・フィル演奏 カラヤン指揮 マラー作曲『交響曲第5番 第4楽章』

この曲は多くのオーケストラ、指揮者により演奏されているが、カラヤンのテンポは一番ゆったりとして、時代に相応しいとされている。その楽章はルキノ・ヴィスコンティ監督の映画『ベニスに死す』のテーマとして使われ、特に話題になった。マラーは最近流行っている作曲家だが、これは一つには彼が100年前、ウィーンで有名になり、世紀末の作曲家として名を挙げたことが、一世紀後の今日、話題となっている。また、曲の処理で多種多様の音を使い、大変に多彩である。これが世界中の音楽ファンの心を捉えたのだろう。

2 次の現象として最近話題になったのはカウンターテナーである。

次の曲を聴いて見よう。

スラヴァの『G線上のアリア』（バッハ曲）

カウンターテナーと言うのは、中世の頃ヨーロッパでは教会で女性が歌うことが出来ないで、男性が女性の声で歌うことで、その頃のなごりである。最近は無性別の時代になって来たので特に売れるのだろう。

3 もう一つの話題は大江光の音楽だ。大江健三郎の長男で精神障害者だが、才能教育によりピアノをひき、作曲をするなど、独特の世界を作っている。

「大江光の音楽」の紹介 同じような子供を持った父母に大きな影響があった。

4 最近流行しているのが、クラシックアーティストによるポップス演奏である。

現在、大変人気の高いよく売れているCDを聴いてみよう。

- ・ 藍川由実（ソプラノ）の『長崎の鐘』 古関裕而がこの曲を作曲したいきさつ
- ・ 坂本紀男（テノール）の『蘇州夜曲』 服部良一作曲、坂本紀男は霧島昇と松原操の長男で音大教授。
- ・ 鮫島有美子（ソプラノ）の『白い花の咲く頃』 鮫島のCDは日本人クラシックアーティストのなかで一番ダントツで売れている。

5 井上陽水の曲も人気があり、近藤嘉宏のピアノで聴く。

井上陽水の『いっそセレナーデ』

陽水の曲は流れるような美しい曲が多く、ピアノ演奏によく合っている。

クラシックの演奏家が単にクラシックのみではなく、こうしたポップに挑戦するのもおもしろいことだと思う。

お茶を飲み、解説を聞き、CDに耳を傾けて大変に良い時を過ごすことが出来た。参加者一同時間の少ないことを残念に思い、パート2を所望して解散となった。

(記録)

続・相続と贈与話し手 藤野 豊
司会 石井 実

司会より会場の雰囲気リラックスするため『頭の体操』を実施した。その後前半の講話の復習も兼ねて話し手より遺言の内容について、司会者が三つの事例を資料に基づき読み上げ、質疑を行いながら進めた。

1 遺言書について法律家のイメージと素人のイメージとは異なる

法律上の遺言とは、財産的事項と認知、後見人の指定、相続人の排除等民法に定められた事項である。葬儀の仕方とか、兄弟仲良くせよと言った訓戒は法律上の遺言ではない。相続者個人の悪口を書きたい場合もあるが、争いを避けるため出来るだけ書かない方がよい。精神論、訓戒、心構え等に関しては別紙にする方がよい。遺言書は公正証書以外は家裁の検認が必要で時間がかかる。また葬儀の仕方や献体など急を要することは、別紙にして検認なしに執行出来るようにした方がよい。

2 遺言書の訂正は難しい

自筆証書の場合の書き損じ、字の間違いの訂正は難しい。字を間違えたら出来れば全文を書き直す。そのためにも財産の処分など法律上の遺言は短く簡潔明瞭にした方がよい。

3 遺留分について

遺留分の請求は権利者が一年以内に請求する。慰留分の請求がなければ遺言通りに執行される。遺言で遺留分を侵した配分をしても構わないが、その場合はその理由を明記した方がよい。

Q：ボケたか或いはボケた振りをして立て替え金を請求しても払ってくれない人がいる？

A：マダラボケが一番困る問題。完全なボケなら禁治産宣告して貰える。ボケの後見(成年後見は現在法務省などで検討中)で数年後には成案が出来るであろう。

Q：遺言には自筆証書、公正証書、秘密証書と三種類あるが、どれが一番すんなりといくか？

A：公正証書が一番すんなりと行く。家裁の検認も不用で遺言執行が即日出来る。その他の場合は家裁の検認が必要で、内容表現が曖昧な場合は執行までに時間がかかる。しかし、いきなり公正証書にしないで、先ず自筆の遺言を書いて見てそれをいろいろと再検討した上で、これで良いとなった時に公正証書にしてはどうか。

Q：息子の嫁には相続権はあるか？(息子が既に死亡している場合)

A：嫁には権利はない。子供がいれば死んだ息子の代襲相続人として子供にある。嫁に相続させたい場合は遺言をするより他に方法はない。

(記録)

量 刑 の 今 む か し

話し手 米田 昭

司 会 野末 孝雄

1 むかしの刑罰は追放が主であった

人間は集団で生活するようになると、いろいろの争い事が生ずる。そのために、集団の長や権力者は秩序の維持や争いの予防のため刑罰を定めることになる。最も手っ取り早いのは、仲間や地域からの追放で更には本土からの追放、島流し、それだけで済まなくなるとこの世からの追放(死刑)ということになる。歴史を遡ると刑罰の主体は死刑である。江戸期『鬼平犯科帳』で知られる長谷川平造(実在の人物、手柄は在ったが小説とは異なる)は、軽い犯罪者や無宿者等を一か所に集め、労働や技術指導、道德教育までして免罪になる時には、なにがしかの手当も与える佃島人足寄場を開設した。これは現在の刑務所に近いものであったが、それだけに其の維持管理には莫大な経費が必要で、幕府の財政にかなりの負担となっていたと言う。

2 明治監獄吏

明治政府は、行刑の在り方についても、理想を掲げ人道的立場を強く主張した。明治5年監獄則諸言『獄ハ人ヲ仁愛スル所以ニシテ人ヲ殘虐スルモノニ非ズ 人ヲ懲戒スル所以ニシテ人ヲ痛苦スルモノニ非ス』とある如くであった。北海道樺戸集治監の受刑者による稲作などは、開拓の先駆的役割を果たしたと評価され、月形典獄の名は所在地の町名となっているくらいである。しかし、その一方において、その後の北海道開拓史の中には、鎖塚・硫黄山等に見られるような苛酷な囚人労働の事実もある。

3 刑務所に入るのはエリート

刑務所の維持管理には多額の経費が必要であり、検事、判事の段階で起訴猶予や執行猶予により実刑率はかなり低い数とされている。刑務所に入るのは、犯罪者の中でも選ばれた者なのである。現在は大部分が罰金で、其の大半は交通違反によるものである。

4 刑罰の主役は罰金

刑罰の現状は、その大部分が罰金刑で、その大半が交通犯罪によるものである。死刑はもちろん自由刑に処せられる者、昔に比べて大幅に減らしてきているにもかかわらず、日本の治安の良さは世界に誇れるものとなっている。

(記録)

写 真 撮 影 の A B C

話し手 岡田 尚
司 会 中野 義光

最近の殆どのカメラは被写体に向けてシャッターを押せば写る「自動露出」「自動フォーカス」になっており、だれにでも写せる時代である。ひとくちに写真撮影と言っても、その種類は多く、記念写真、風景写真、ポートレート、動物・植物写真、スポーツ写真、などなどさまざまな被写体がある。その各々の被写体や撮影条件等に対して効果的な撮影をするためには、フィルム、カメラなど写真に関する基礎知識を理解することが何よりも大切であり近道でもある。

1 フィルムの種類とその性能

撮影目的や使用カメラに合ったフィルムを選ぶ。

- ◇ネガフィルム(プリント用)
- ◇ポジフィルム(スライド用)
- ◇サイズ(35ミリ、6×6、6×9など)
- ◇感光度(ISO100、200、400など)

2 ピント合わせ

焦点調節機構のないカメラは別として、撮影目的の「主題」にピントを合わせる。一般的にはもっとも強調したい部分、たとえば、人間の場合は顔に、顔の場合は目に合わせる。写真の世界では主題となるピントの合った部分と背景のボケた部分の相乗効果で写真ならではの、いろいろな表現ができる。ピンボケやカメラブレなどには注意。

3 露出

フィルムの感度に対応した絞りとシャッター速度の組み合わせで、最も良い写真を作るための露出を「適正露出」という。露出の決定方式はカメラによって異なるが、次の三方式がある。

- ・プログラム EE 方式 絞りとシャッターの組み合わせをカメラが勝手に決めるもの。
- ・絞り優先方式 絞りの値を先に決めそれに相当するシャッター速度をカメラが自動的にきめるもの。
- ・シャッター優先 EE 方式 シャッター速度を先に決め 絞り値はカメラが自動的に決めるもの。

4 絞りとシャッター速度の関係

絞りは光量をコントロールする穴でその穴の大きさ(レンズの明るさ)を表わす値が絞り値である。レンズの焦点距離を絞りの有効口径で割った数値でレンズの明るさを示す。絞りとシャッター速度との関係は、適正露出をバケツ一杯の水と考えると、水道の蛇口(絞り)を大きく開けば短時間(シャッター速度)で一杯になり、小さくすれば長い時間がかかる。絞りの目盛もシャッターの目盛も隣の目盛は2倍、1/2の関係にあるので、撮影目的に合わせてその組み合わせを考える。例えば絞りがF 8でシャッターが1/250が適正露出の場合、次の組み合わせが同一露出である。

絞 り	4	5.6	8	11	16	22
シャッター	1/1000	1/500	1/250	1/125	1/60	1/30

5 レンズと絞りの働き

絞りは光の量を調節する役目のほかに次のような働きがある。

- ◇絞りを小さくすればするほどピントの合う範囲が広がる。
- ◇絞りを開ければ開けるほどその範囲は狭くなる。

- ◇開放よりも小さく絞った方がレンズの解像力は良くなる。
- ◇ピントを合わせる被写体とカメラとの距離が近いほどピントの合う範囲は狭く、遠いほど深い。
- ◇広角レンズ(短焦点)ほど深く望遠レンズ(長焦点)ほど浅い。

終了の時間がきたのでストロボ撮影などは省略した。

最後に質問で印画紙の種類、写真の構図の考え方、夜景の写し方などの質問があった。

(記録)

驚きの猿社会

話し手 松尾 信一郎

司会 志茂 源次

多摩動物園内での人気は高いが、扱われ方はマイナーの存在である猿の生態習慣を中心として、下記の内容の講話が会員、客員等の活潑な 質疑応答の中行われ、終了時刻を5分程オーバーする程の盛り上がりを見せた。また、解散間際に機会を見て動物園見学行希望の提案が客員より出された。

1 猿の暮らし

基本的には寝るか食べるだけで群れ生活が大原則となる。子供は遊び中心で、大人は群れを作り、常に神経を使いお互いに強弱、自分の立場をチェックしている。(例、リーダーは悠然と歩くが、その他は斜行して落ち着きがない)

強者は弱者を、弱者は更なる弱者を威圧して自分の立場を保持する。小競り合いはよく行われるが世代交替の際は徹底的にやる場合もある。発情期は秋で出産は春となり、寿命は平均25～35年位である。

2 猿社会の構造

牝は終生群れで暮らす、牡は5才過ぎると群れを離れて行き、逆に外様の牝の群れに入りリーダーとなる(この傾向は自然に近親交配を避ける結果となっている)。外様の牡は強く、牝に対しては優しくなければ群れに受け入れられない。平常時の生活は牝が中心となり、全体的には母系社会であると言える。強さが地位を裏付け、地位の高い猿ほど優位を保つが、個々が常に自分中心の有利な生き方を模索している「寄りかかり社会」であると言える。

3 環境による猿と人間とのいさかい

多摩川の流域を中心として、秩父方面とその対岸(美山、小津、日野原、あきる野、八王子)を、150匹から250匹が餌あさりのため常に激しい移動を行っている。最近、農作物等の被害が多くなって来たのは

- ①植林による針葉樹(食物が実らない)が多くなり、餌不足の傾向を助長していること。
- ②観光客目当ての餌付けから、猿がずるくなり楽をして食物を得ようとする傾向が強くなって来ている。
- ③通行客等が食べ物を与える。

等が原因として考えられる。人間との関連性で、猿に対する姿勢を見直す時期が来ていると思われる。

(記録)

数寄屋の美

話し手 小町 和義
司会 小坂 善治

数寄屋を理解するため茶道との関連について勉強した。

1 歴史的背景

- ・唐の時代には禅をしている時の眠気を覚ますためにお茶を飲む。これは健康上からも良い。
- ・鎌倉時代 武士が台頭し、寄り合い茶(寄り合いの時に飲む茶)
斗茶(茶の産地を当てて景品を貰う)
- ・大阪堺の豪商は武器を輸入し、武士は茶器を売り武器を手に入れた。
- ・茶道が盛んになった時代は世の中が乱れていると言われている。
- ・珠光は『わび茶』の開祖と言われている。千利休以後『わび茶』『禁中・公義の茶』『大名茶』と分れる。
- ・『わび茶』の中心は『武者小路』『表千家』『裏千家』であり、明治維新後段々と大衆化されて来た。

2 茶室

四畳半が一般的であるが、大きいもの、また三畳の茶室もある。茶室空間の構成について学ぶ。

参加者からの質疑応答

Q：煎茶と抹茶は最初からあったか？

A：煎茶は江戸の初期からである。

Q：茶室の躰り口(にじりぐち 入り口)が小さいのは何故か？

A：部屋が狭いから視線を落として入ると空間が広く感じられる。貴人を招くために他に貴人口をつける場合もある。

Q：カトリックのミサと日本のお点前と似た点があると思うが？

A：茶道は平和的であり、合理的なバランスを考えている。ミサとは合理的な方法と言う点で共通点があるのではないか。

Q：本来の茶道は『わび』『さび』で茶室を作り、あまり費用を掛けなかったが、現代の茶室は費用が掛るのは何故か？

A：家元制度が商売を目的としている。また、現代では皮付きの丸太を探すのも銘木店から集めなければならない、本来の精神から外れてしまっている。

(記録)

非常時に備える保険

話し手 北原 満夫
司会 大高 秀夫

司会者から、このセミナーは最初に、20分程話し手が話をした後、残る時間を質問に答える形で進めて行きたい旨発言があり開始した。先ず、話し手から最近話題になった日米保険協議を受けて保険経営が変わった事情(生保と損保の兼営、保険料の自由化への動きなど)、地震保険のあらまし、火災保険を掛ける際の注意事項等の説明があり、質疑応答に移る。

Q：共済組合でも火災保険を扱っているが、損保会社のそれと比べて何処が違うか？

A：保険料(掛け金は共済の方が安い)、焼失した時の支払い条件も殆ど変わらない。ただ、大火事で一遍に多数の家が焼けた場合には担保力で歴史のある(異常災害準備金として永年積み立てしている)損保会社の方が勝ると思われる。

Q：火災保険を3000万円、地震保険を1000万円付けていて地震で火災が発生、全焼した時火災保険の3000万円は払って貰えるのか？

A：地震が原因で起きた火災は一般の火災保険では支払われない。この場合は地震保険の1000万円だけが支払われる。

Q：損保会社と共済(或いは別の損保の両方の保険に加入していた場合、災害があった時両方から払って貰えるか？

A：例えば時価2000万円の家屋に損保に2000万円、共済に2000万円加入していたとすると、全焼になった時、保険は時価相当額が支払い限度となるため、両方から1000万円ずつの支払いとなり、2000万円ずつの支払いはない。

Q：ローンで家を建てた時、強制的に火災保険に加入させられるが、年が経ってローンの返済も進み、家も古くなり価額が下がって来た時、保険はどうなるのか？

A：借入れ金のある間は、ローン会社は家に抵当権をつけており、同時に焼失した時のため火災保険をつけさせ、万一の場合は支払い保険金がローン会社に入るように質権設定契約にしてある。従って火災保険はそのまま続けていても焼失した時は借入れ金の残高はローン会社に、残りは本人に支払われる。

Q：VISAとJCBとに加入しているが、夫々のカードには旅行傷害保険がついている。旅行中に事故に遭った時両方の会社から保険金は貰えるか？

A：両方の会社からそれぞれ決められた額を払って貰える。

(記録)

美術品鑑賞と鑑定

話し手 岩岡 茂之
司会 田淵 元子

日本に於ける公認の美術品部門別分類(絵画、彫刻、工芸品、書の四部門)の基準と、それに付随した準部門(音楽、建築、デザイン、写真等の簡単な説明から、絵画、工芸品を中心とした解説が、現品見本を添えた方式で話し手の経験にもとづき行われた。

1 使用された現品見本

- ①池田遙邨 デッサン富嶽 碗未亡人 花 鑑定シール付
- ②浜田庄司 藍塩釉櫛目茶碗 直筆箱書付
- ③上村松篁 リトグラフ 春苑 バック8色使い
秋野 バックきらら(雲母)使い
- ④橋本明治 画集
- ⑤土瓶 (八王子エルシィ備品 借用)

2 解説内容

- ・鑑定と鑑別に関する解釈と実際との相違点(宝石類の鑑定と鑑別を例として対比)
- ・現存作家には鑑定の必要がない点(自身が証明出来るため)
- ・物故作家の鑑定は遺族中心に行われる点 (見本1使用)
- ・陶器箱書きに関する作法と箱自体の造りについて (本2使用)
- ・浜田庄司作品の鑑定上決め手となる造りの特徴について (見本2使用)
- ・楽茶碗の造りのきまりについて
- ・土瓶に関連した制作上のきまりについて、使用上および展示上の心得について (見本5使用)
- ・真贋に関する過去の二大事件『永仁の壺』『佐野乾山』の経緯と問題点の解釈及び要点について(歴史的記録の有無、仮名文字の使い勝手、有名人の対応と評価など)
- ・画家の背景(バックに対する色使いの執念について(多色によるタイアップ 効果、きらら(雲母)使用の効果)(見本3使用)
- ・橋本明治画伯による伝統の壁を乗り越えた舞妓の絵に関する挿話について (見本4使用)
- ・肖像画に関連した制作上の傾向について(真正面を向いたものは少ない)
- ・人物画に関する八方睨みの技法について(目の描き方、能面の目の彫り方など)
- ・19世紀ヨーロッパ絵画の歴史的経緯からの真贋の見分け方(風景画に於ける人物、動物等の在り方)
- ・写真機の出現による絵画の傾向の変化について(記録目的より心象表現への移行)
- ・八王子(明神町)在住 小山敬三賞受賞作家 原光子氏について
- ・価値判断の4基準について
 - ①作品価値 ②商品価値 ③保存価値 ④伝来価値の4項目を勘案して価値判断を下す
- ・骨董品の解釈について(100年以上経過したものを骨董品と称し、未満のものは古物となる)

付記 司会者のご配慮で日本主要産地の陶芸作品(京焼き、萩焼き、備前焼き、信楽焼き)が展示された。

(記録)

書道に親しむ

話し手 田子 捻

司会 田中 清

1 書道の歴史について

BC1550 殷代に甲骨文と言う亀の甲や牛の肩甲骨に彫りつけられた文字が最古のもので、次に東周の石鼓文に見られる字体を経て、BC221 の秦代に至り始皇帝による文字統一の大事業により小篆が誕生する。BC206 の前漢に至り草書・隸書の成立を見るが、この頃製紙法が考案され最初の辞書『説文解字』も出現し、書の基礎が出来上がる。後漢に至り楷書が成立するが、各所に隸書を中心とした碑文が数多く成され『曹全碑』『礼器碑』等、隸書の代表的作品多数出現する。東晋(317)に王羲之が現れ、今日の書の基盤が完成する。特に草書、行書に於いては今日に至るまで彼の右に出るものはないと言われている。『蘭亭序』『十七帖』等数多くの作品が残されているが、本物は彼の書をこよなく愛した唐の太宗が、全てこれを自分の墓に埋めさせたため、全て模写本しか無い。この太宗が歴代帝王中最も優れた書家であったこともあり、唐代に虞世南、欧陽詢、褚遂良、顔真卿、懐素等、多数の書家が現れ黄金期を迎える。一方、日本では平安朝に唐で学んだ空海や最澄等が王羲之や顔真卿の影響を受けた名品を残した。

(以下略)

2 文房四宝について

筆、墨、硯、紙の所謂文房四宝について話し手の所有する品を展示しながら説明が行われた。まず、筆については、筆に使われる原毛の剛いものの代表は馬、柔らかいものの代表は山羊、このほか兎、羊、狸、いたち等があるが、初心者はこれらを混ぜ合わせた『兼毫』がお薦めである。腕が上がるにつれて羊毛の割合を多くし、羊毛を使い切るとその線質の面白さが出る。硯は『鋒鋸』(ほうぼう)という硯の平面にあるギザギザのことで肉眼では見えないが、これが磨り下ろす時の主役の役割を果たす。硯の名硯と称せられるのは中国の端溪、歙州、澄泥であるが、就中、水巖端溪にその止めをさす。現在では中古品を除き、入手不可能。代表的な日本の硯は雨畑石や赤間石等がある。墨には中国製『唐墨』と日本製の『和墨』があるが、品質管理上の問題から『和墨』が優れている。墨には油煙と松煙の別があり、油煙は菜種、胡麻等の油を、又、松煙は松をそれぞれ燃やしてその煤煙を採取し、膠と香料を加えて練り合わせ、計6ヶ月程養生乾燥させる。紙の原料は麻、雁皮、楮、三桠、桑、藁、パルプ等。紙の種類は百を越える。中国画仙紙は『漢字』に適し、和紙は『かな』に適している。

付記 話し手の号は溪浦、全日本書芸文化院理事として活躍している。

(記録)

家庭教育の在り方

話し手 大山 秦
司会 大野 幸二

話し手より

家族構成、家庭環境は多様であるが、家庭に求める役割は『心のやすらぎの場』であり、家庭内外の環境条件の改善への努力は不可欠であるとの発言があった。

参加者より

- ・近隣の子供に接する方法を勉強中。
乗り物の中で高校生に『食べ物次は次の積で降りてから』と丁寧に話し掛けたら話を聞いてくれた。
- ・自分の家庭のみを考えるのではなく社会に目を向けることが必要。
最近のペルー人質事件でフジモリ大統領、青木大使の行動に清々しい思いをした。
- ・5歳の子供も知っている事が80歳になっても実行しにくい。
仏教の教えは『自分の心の中に各自が作っていくもの』であり、子供や孫が見ている。
- ・昔の親は『他人のものを取るな、嘘をつくな』と教えた。子供は親の背中を見て育つ。
- ・日本の文化の一つに世間に笑われないよう『恥じを知れ』とある。周囲の人間関係を大切にしながら生きることが必要
日本では消極的なしつけ 他人に迷惑をかけるな
米国では積極的なしつけ 他人の手助けをする、協力する、自分の発言に責任を持つ、回りの人との関わりを大切にする
- ・13年の単身赴任中、帰宅した時の食卓で自分の座る場所がだんだんなくなって来たのを感じた。
息子の結婚式の時『親父ともっと話をしたかった』と言われ、父親の存在感は大きいものと思った。
- ・孫の躰には口出ししない様になっている。何かあった時に子供に『この方が良かったね』と言う。子供と一緒に成長している。
- ・広報紙の原稿で『子供の成績が悪かったのは母親似』と書いたら、教育委員会からクレームがつき訂正した。
中学生の子供が二人いるが『番長になれ(リーダーになれ)』と言っている。責任のもてる子供になってほしいから。

(記録)

地域社会と学校話し手 土井 俊玄
司会 川津 鉄禮

話し手からレジュメに従い

- ①開かれた学校とは
- ②学校・地域社会・家庭間の連携の強化
- ③地域教育力の向上を目指して
- ④学校のクラブ活動と地域のクラブ活動の接点について

それぞれ、項目別に説話があった後、③の地域教育力の向上を目指して、に話題が集中した。

即ち、説話では江戸時代、幕府は幕藩体制の維持のため身分制度を定めると同時に五人組の制度を設け、連座制(連帯責任)を押しつけていた。農村の各家々は相互に監視しあい、犯罪の防止・年貢の完納・身分秩序の維持等に汲々としていた。また、それとは別に助け合わなければ生きていけないために村落共同帯として相互扶助の精神が脈打っていた。その事の善悪(評価は別にして、少なくとも青少年に対する行動規範もはっきりしており、地域の教育力も大きなものがあった。しかし、それが第二次世界大戦の敗戦を境として価値観の大きな変動が起こり、産業の発展・人口の都市集中・核家族化・少子化等により地域の教育力は著しく低下したと言っても過言ではないだろう。

この地域教育力の回復はどうしたら良いのか、と話したが、これを受けて現代は確かに地域教育力が低下している。かつての怖いおじさん、お婆さんがいなくなった。逆に注意すると仕返しが恐ろしくてなかなか出来ない。一般的には今の中高年は若い人に遠慮がちであるが、もっともっと勇気をもって自信を取り戻そうと言うことになり、親の教育に助言をしよう、と言うことになった。

(記録)

気学入門

話し手 大野 聖二

司会 森下 敏雄

占い、あるいは運命学とも言われるが、話し手の知っている限りでも100種類は越えそうだ。特に現在のように行き先の不透明な時期には興味を持つ方が増大している。

この種の占いは大別すると3種類に分けられる。一つは靈感、あるいはテレパシーに頼るもので、易者が直接判断するのと、筮竹やタロットカードなどのような媒体を使うものがある。次に人をシンボライズする現象、人相、手相あるいは印相、姓名判断等による方法もある。最後に天体や自然現象との関連の中で判断する、占星術、方位学等のようなものがあり、気学は方位学や家相などを集大成したもので、運命を改善出来る手段のある運命学であると言える。

気学の原点は、陰陽五行説であり、これを理解することが一番早い習得の手段である。陰陽の二元論は、日本書紀の天地創世の思想にも現れ、哲学の上でもヘーゲルの弁証法から、さらに唯物弁証法として社会主義の理念となり、宗教の面でも弁証法的神学に通ずるものがあり、遺伝子の構造の上にも現れる。

五行とは、万物は木火土金水によってなり、それぞれの相生相剋の関係で人や社会の命運が定まると言う思想である。水火土金水の隣り合っているのは相生でそうでないのは相剋していることになる。気学はこれらを一白水星、二黒土星、三碧木星、四緑木星、五黄土星、六白金星、七赤金星、八白土星、九紫火星と八方位に九星をもうけ配分して、この配合と調和によって運命を判断する学問である。基準になる方位盤として後天定位があり、九星は毎年立春を境にして一方位ずつ移動するので、それに自分の生まれた年月の九星(本命、月令)を五行説に基づく相生、相剋あるいは五黄土星、それに関わる暗剣殺のような凶方等との関係で照らし合わせて運命がどう定まるかを判断する訳である。

気学の良さは吉方の方位に行くことや、吉相の家に住むことによって運勢を良くすることが出来るし、また凶方へ移転や旅行をすることを事前に知ることが出来て、それを止める事が可能なことだ。

九星の象意については別表を参照のこと。

(記録)

東南アジアの民族衣装

話し手 安藤 美代子
司会 浜野 幸雄

話し手がイントロとして

韓国のチマチョゴリについて衣の造形

日本の呉服のルーツ

多様多彩な 民族衣装

について簡単な説明を行った。

引き続き、話し手が持参した民族衣装(韓国、モンゴル、ミャンマー等)の素材や民族的な特徴、生い立ちについて現物に触れ、着用したり、また記念としてポラロイドカメラで写真に撮って貰ったり、和気藹々とした、あっという間の一時間であった。

(記録 浜野 幸雄)